

頓珍漢 素人俳壇

本学園の
学生・教職員の方々から
投句いただきました。

行く秋に 亡き師慕ひて 頁繰る

多聞

空気澄み 錦織り成す 図書の棚

染葉

厚き書を 閉じてトロトロ 眠る秋

落葉

名月の 灯り拾いて 読書かな

良久葉

祭り笛 図書館の窓 響かせる

尾棕

盆支度 余る小説 スキャンする

甘柿

包装の 中で色づく 柿羊羹

傑作

送り火に 一陽来復 希う

粗品

山々は われらに代わり 色葉密

竹筒

縁側に 雑書を照らす 秋の月

雀宙

秋の名句

かれえだ
枯枝に

からす
烏の止まりけり

秋の暮

松尾芭蕉

●俳句の説明

枯枝と烏は、助け合って互いにその心像を明確にしているが、その照応は、時の中にあるながら時を越えた瞬間を創造するためのものである。本書の著者の一人、キーン氏はこの句にそういった要素を感じ取り、クリステワ氏も「時を越えた瞬間」こそが俳句のエッセンスであり、その無限の世界の秘訣なのではないかと語る。

秋の
図書館を
詠む

この句と説明は
本学の所蔵資料
から

ドナルド・キーン、ツベタナ・クリステワ 著

『日本の俳句はなぜ世界文学なのか』

弦書房 2014

請求番号：911.3||Kee

本館 書庫 1F



体調にはくれぐれも気をつけて、涼しい秋をお過ごし下さい。（雀宙）